

**研究主題**

造形活動を通し 自らつくり出す 喜びを味わう  
 ～ 人・材料・場所などとかかわりながら ～

大阪市立九条南小学校

**1. 取組内容**

**目的**

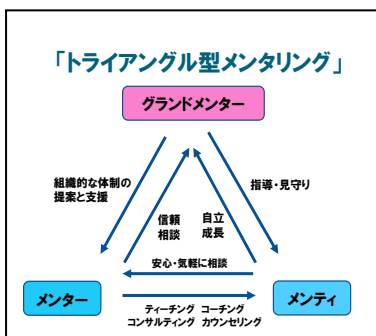
図画工作科を研究教科とし、子どもたちが自由に想いを表現できる学習指導を通して、若手教員の題材開発力・指導力を高め、児童理解を深めるようにする。

**(1) 学習指導法の基礎基本の徹底**

- ・講師の先生を招聘し、講義や実技研修を実施した。( 6回 )
- ・図画工作科をはじめとする実技研修会を研究推進委員が中心となり、計画的に実施し指導者の授業力の向上に努めた。( 5回 )

**(2) 若手教員への支援 (PDCAサイクルを活用して)**

・公開授業、学習参観に際して、メンティの思いに寄り添い、メンターが適時相談にのり、授業づくりをより良い方向へと導き、授業実践を行った。



・メンティが事前に用意した板書計画と授業力向上アドバイスシートなどを改良したチェックリストを用いて、グランドメンターが中心となり、メンティの授業を参観し、評価を行う。そして、放課後や昼休みに討議会を行い、授業についてよかったところや改善点を出し合うことで、次への意欲を高めるようにした。

・メンターは討議会で出された意見をもとにメンティのアクションプランを作成し、次への実践へとつなぐ。

・授業だけでなく、学級経営に関する内容なども日常的にカウンセリングを行う。

**(3) 研究教科「図画工作科」における若手支援**

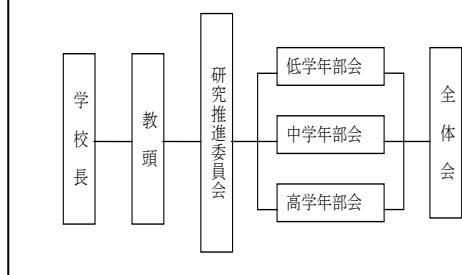
- ・全校でのアンケートの実施による、学校・学級の児童の実態を把握する。
- ・先輩教員が先行して授業公開することで、図画工作科の授業展開について認識を深める。
- ・研究推進委員から複数の題材を紹介し、学級の実態や思いに合った題材をメンティ自身が自己選択・自己決定することで公開授業への意欲を高める。

・指導案立案について、メンティの思いに寄り添いティーチングを行う。

・研究推進委員・低・中・高学年部会で指導案検討会を行い、メンティの思いをよりよい形で授業に活かせるようにさらにティーチングを行う。

・図画工作科で大切にしている「**試し**」の時間を全公開授業の前に企画し、全メンティとメンターが共に児童の気持ちになって表現してみる。そこで効果や改善点を見つけ、授業展開を練り上げる。

**研究の組織**



・メンティは、「試し」や事前に児童がかいた「イメージカード」をもとに十分な準備を行い、自信をもって公開授業を行う。

・授業展開の中では、メンターが行う情報教育研修会で実習した技能を活かし視聴覚機器を有効に活用することで児童の活動がスムーズに進んだ。

・放課後の討議会では、図画工作科の研究内容だけでなく、発問の仕方、間の取り方など、平素の授業に活きる内容のアドバイスなど、コーチングを行なった。



・討議会の内容を次時に活かし、児童の表現がより発想豊かになるように、発問や準備物をメンティが中心に整備し、メンターがアドバイスしながらコンサルティングを行い実践につなげる。

・単元の全学習が終わると、児童の感想や反応、メンティーの感想や反省を交流する時間をもちカウンセリングを行う。

・研究推進委員が授業の成果や課題、児童の反応などを公開授業後に「研究だより」にまとめ、発行することで、いつでも授業を振り返ることができる。

・「校内作品展」では、作品の掲示や展示の仕方について、メンティの若い発想とメンターの経験がうまく融合し、児童の作品がより引き立つ会場となった。



## 2. メンターの感想

・公開授業にあたり、共に授業展開を考えることで、メンティは自信をもって授業に臨み、メンター自身も日頃の授業展開を振り返る機会になった。

・組織化し、学校全体で取り組んだことにより、自身の役割を自覚し、積極的にメンティに関わり、支援ができた。

・素直に助言を受け入れ取り組むが、自分の思いを語ることも大切にしてほしい。

・授業力向上には教材研究を深めることが欠かせない。授業に活かせるたくさんの資料を自ら紐解き、学級の実態に合ったものを見つける努力も重ねていけるように支援したい。

## 3. メンティの感想

・実技研修会ではもちろん、日常的な会話の中で気軽に相談ができる雰囲気があったのでよかった。

・授業や学級経営等で、様々な不安があったが、気軽に相談できアドバイスをいただくことで、自信をもち安心して授業を行うことができた。

・先行して授業を見させてもらうことで、自分なりの考えをもちながら教材研究に取り組み、実態に合った授業を行うことができた。

・もっと自分から積極的に先輩方と関わり、先生方の良いところを吸収し日々の指導に活かしていきたい。



## 4. 成果と課題

・図画工作科の研究では、児童の関心・興味を大切にし、感性をはたらかせて自由な発想で表現できる題材を開発したので、一人一人のよさを生かした、多様な表現が生まれた。

・イメージカードなどの学習カードを活用することで、児童も指導者も戸惑うことなく授業に取り組めた。

・実技研修や事前に本単元の作品や表現活動を指導者が試すことにより、基礎的・基本的な指導のポイントが明確になり、必要な資料・学習指導材・掲示物・用具・材料などの準備や製作をしたり、個に応じた助言や支援をしたりする時に役立てることができた。

・メンティが自己選択、自己決定できるようにメンターが支援を行ってきたが、メンティが積極的に教材開発や教材研究に取り組むようにさらに助言を続ける。

・学級経営や学級指導など、困った時にはいつでも相談できる体制を維持していく。